

経済レポート

グラフで見る東海経済(2018年3月)

調査部 塚田裕昭 杉本宗之

【今月の景気判断】

東海経済は回復基調で推移している。生産は増加基調で推移し、輸出は持ち直している。雇用、賃金は緩やかに持ち直しているが、個人消費は総じて横ばい圏での推移となっている。設備投資は弱含んでいる。住宅着工は横ばい圏で推移している。公共投資は減少している。

先行きについては回復基調が続くと見込まれる。生産は輸送機械が底堅く推移する中、全体として緩やかな増加が見込まれる。輸出は、世界経済が緩やかに持ち直す中、持ち直しが続くと見込まれる。消費は、所得環境が緩やかに持ち直す中、底堅さを維持するだろう。設備投資は再び増加基調となり、公共投資は均してみると横ばい圏での推移が見込まれる。

【今月の景気予報】

	3ヶ月前～	現況	～3ヶ月後		3ヶ月前～	現況	～3ヶ月後
景気全般	↗	☁	↗	輸出	↗	☁☀	↗
個人消費	→	☁	→	輸入	↗	☁	→
住宅投資	→	☁	→	生産	↗	☁☀	↗
設備投資	→	☁	↗	雇用	↗	☁	→
公共投資	↘	☁	→	賃金	→	☁	→

(注)1. 3ヶ月前～、～3ヶ月後は「現況」の変化の方向感(改善、横ばい、悪化)を表し、「現況」は現在の水準を天気マークで表す。

(注)2. シャドウ部分は、前月から矢印および天気マークを変更した項目を表す。

【当面の注目材料】

- ・世界景気～トランプ政権の混乱と政策の行方、米景気への影響、北朝鮮など地政学リスクの動向、米国の金融政策の動向、中国経済の回復と不良債権など構造問題
- ・企業活動～電子部品デバイスの生産・在庫動向、自動車関連の生産、工作機械受注動向、企業収益と設備投資の動向、人手不足の企業経営への影響
- ・政策～日銀新執行部による金融政策の今後の展開
- ・家計～賃金の改善状況と物価動向の家計消費への影響

～本レポートについては最終ページ【「グラフで見る東海経済」の見方】参照

ご利用に際してのご留意事項を最後に記載していますので、ご参照ください。

(お問い合わせ) 調査部 TEL: 03-6733-1070(東京) / 052-307-1106(名古屋) E-mail: chosa-report@murc.jp

【各項目のヘッドライン】

項目	2月のコメント	3月のコメント	ページ
1. 景気全般	回復基調	回復基調	4~5
2. 生産	増加基調	増加基調	6~8
3. 雇用	緩やかに持ち直している	緩やかに持ち直している	8~9
4. 賃金	緩やかに持ち直している	緩やかに持ち直している	10~11
5. 個人消費	横ばい圏で推移している	横ばい圏で推移している	11~13
6. 住宅投資	横ばい圏で推移している	横ばい圏で推移している	14
7. 設備投資	増加が一服	弱含み	15~17
8. 公共投資	増加している	減少している	18
9. 輸出入	輸出、輸入ともに持ち直し	輸出、輸入ともに持ち直し	19~20
10. 物価	緩やかに上昇	緩やかに上昇	20
11. 金融	預金、貸出ともに増加	預金、貸出ともに増加	21
12. 倒産	倒産件数、負債総額ともに増加	倒産件数、負債総額ともに減少	21

(注)シャドー部分は前月と比較して見方を変更した項目(11.金融、12.倒産を除く)

(*)参考資料:「グラフで見る景気予報」 <http://www.murc.jp/thinktank/economy/overall/japan>

【前月からの変更点】

7. 設備投資

2017年10~12月期の東海4県の大企業の設備投資(ソフトウェアを含む)は、前年比 - 0.6%と三四半期連続で減少した。

8. 公共投資

2月の東海3県の公共工事請負額は、前年比 - 44.7%の328億円と2ヶ月連続で前年を下回った。年度累計では同 - 0.8%と4ヶ月ぶりに減少した。

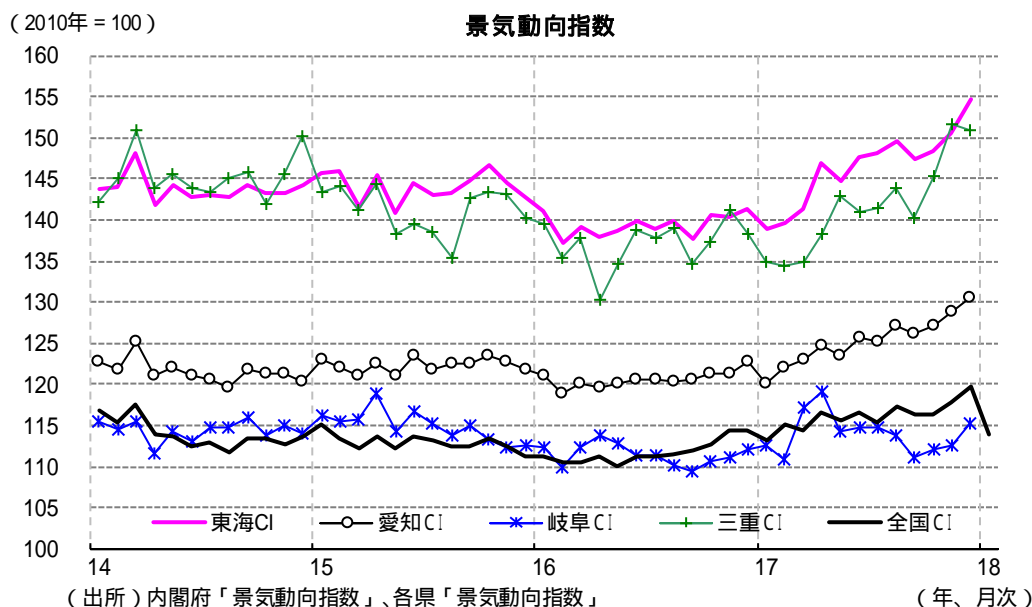
【主要経済指標の推移】

経済指標		16	17	17	17	17	17	17	17	17	18	18
		10-12	1-3	4-6	7-9	10-12	9	10	11	12	1	2
景気全般	東海景気動向指数 (C I、一致指数)	140.8	140.0	146.4	148.3	151.2	147.3	148.3	150.6	154.7		
	景気動向指数 愛知 (C I、一致指数)	121.8	121.8	124.7	126.2	128.9	126.2	127.1	128.9	130.6		
	岐阜 (C I、一致指数)	111.3	113.6	116.1	113.2	113.3	111.2	112.2	112.5	115.3		
	三重 (C I、一致指数)	139.0	134.7	140.7	141.8	149.2	140.2	145.3	151.6	150.8		
	景気ウォッチャー調査 (現状判断DI、季節調整値)	48.9	49.9	50.6	50.8	54.1	51.4	52.4	56.1	53.9	52.4	50.0
	(先行判断DI、季節調整値)	50.3	49.5	49.5	51.1	54.9	51.8	56.4	54.1	54.3	53.7	52.4
短観業況判断DI (製造業)	(製造業)	4	6	9	16	15	10	<3月予想>				
	(非製造業)	12	11	13	13	17	10	<3月予想>				
法人企業統計経常利益 製造業(兆円)		0.9	0.7	1.1	0.9	1.1						
	非製造業(兆円)	0.3	0.2	0.4	0.4	0.4						
生産	鉱工業生産 (季節調整済、前期比・前月比)	0.9	-1.2	3.9	3.4	3.0	-1.3	-0.5	1.5	8.1	-12.4	
	鉱工業出荷 (季節調整済、前期比・前月比)	1.7	-1.5	3.5	3.1	1.7	-2.0	-0.9	1.2	6.8	-11.4	
	鉱工業在庫 (季節調整済、前期比・前月比)	-4.8	-5.9	-3.4	-0.5	1.9	-1.7	1.2	0.9	1.4	-1.7	
	鉱工業生産 輸送機械 (")	0.7	-3.8	5.1	1.8	7.2	-1.3	1.0	1.3	14.7	-19.2	
	はん用・生産用・業務用機械 (")	3.9	0.4	4.9	6.2	0.6	4.2	-5.9	1.6	9.5	-9.5	
	電子部品・デバイス工業 (")	1.1	4.4	4.9	6.1	5.0	-3.9	1.1	8.2	6.5	-9.6	
	プラスチック製品工業 (")	-2.0	-3.1	4.2	1.1	1.8	-0.2	0.4	1.4	1.0	-6.8	
	化学 (")	1.7	-0.7	-1.9	2.6	-0.6	-7.8	2.5	-0.1	2.8	-6.8	
	電気機械 (")	3.3	-0.1	3.7	5.1	-3.5	3.2	-5.6	-1.2	3.5	-8.7	
	鉄鋼 (")	2.3	3.7	-0.7	-0.2	0.5	0.5	-0.8	-2.5	4.3	1.8	
金属工作機械受注	総受注 (億円)	350.1	343.1	421.7	418.9	460.0	442.1	433.0	455.3	491.7	442.2	
	国内受注 (億円)	126.2	121.0	151.5	156.1	168.0	171.1	163.5	153.3	187.2	147.8	
	海外受注 (億円)	223.9	222.1	270.2	262.8	292.1	271.0	269.6	302.1	304.5	294.4	
雇用	完全失業率 (原数値、%)	2.5	2.3	2.5	2.4	2.2						
	就業者数 (原数値、万人)	784	793	784	785	803						
	常用雇用指数 愛知	101.1	100.0	101.4	101.6	101.7	101.7	101.7	101.7	101.6		
	岐阜	102.0	101.7	101.9	102.0	102.1	102.1	101.4	102.4	102.4		
	三重	100.1	99.4	100.8	101.1	101.3	101.2	101.1	101.6	101.3		
	有効求人倍率 愛知 (季節調整値、倍)	1.7	1.7	1.8	1.8	1.9	1.84	1.86	1.87	1.88	1.91	
	岐阜 (季節調整値、倍)	1.7	1.7	1.8	1.8	1.9	1.83	1.82	1.84	1.92	1.90	
三重 (季節調整値、倍)	1.5	1.5	1.6	1.6	1.7	1.63	1.66	1.67	1.65	1.68		
新規求人倍率 愛知 (季節調整値、倍)		2.6	2.7	2.8	2.8	2.9	2.94	2.94	2.82	3.01	2.87	
	岐阜 (季節調整値、倍)	2.5	2.4	2.5	2.6	2.7	2.59	2.62	2.75	2.87	2.60	
	三重 (季節調整値、倍)	2.1	2.1	2.3	2.3	2.4	2.37	2.43	2.30	2.36	2.42	
賃金	現金給与総額	0.7	0.2	0.8	0.8	0.2	1.1	0.4	-0.6	0.6		
	所定内給与	0.8	0.9	1.5	0.9	0.4	1.6	0.5	0.3	0.3		
	所定外給与	-3.5	-2.3	-1.2	-1.1	1.0	0.1	-0.3	2.3	0.9		
	勤労者世帯 (含む農家) の名目収入 勤め先収入	1.4	6.7	-5.3	0.4	2.1	-2.6	-0.1	4.6	2.0	-5.5	
定期収入	0.3	4.7	-3.0	-1.4	0.4	-0.9	3.1	1.5	-3.3	-2.1		
個人消費	勤労者世帯 (含む農家) の名目消費支出	2.0	-9.1	-2.0	-2.3	0.0	-2.8	-8.5	3.9	4.7	5.2	
	百貨店販売額 (名古屋市内)	-1.7	0.0	-0.9	-0.1	-0.7	7.1	-3.1	2.8	-1.5	0.1	-0.6
	百貨店+スーパー販売額	0.4	-1.5	-0.4	-0.2	0.8	0.7	-2.2	0.0	-0.2	-0.2	
	コンビニエンスストア販売額	4.5	2.3	2.9	2.0	-0.3	1.1	-1.2	-0.2	0.5	0.4	
	新車登録台数 (含む軽)	7.3	6.7	12.2	0.0	1.1	0.1	-3.4	1.4	4.9	0.0	-2.1
	家電大型専門店販売額	0.3	1.8	3.9	6.9	3.6	3.1	-1.3	6.4	4.9	5.3	
	消費者態度指数 (一般世帯、原数値)	41.1	42.7	43.7	43.6	44.3	43.7	43.6	44.6	44.6	45.1	43.9
住宅投資	トヨタ国内生産台数 (季節調整済、万台)	26.4	26.6	26.1	25.6	28.0	25.1	26.8	28.7	28.5	26.6	27.0
	新設住宅着工戸数 (季節調整済年率換算、千戸)	109.6	107.1	108.1	108.7	110.7	110.0	108.1	117.0	107.1	111.9	
設備投資	(前年比、%)	8.6	0.2	2.0	-1.6	0.8	1.6	-3.4	4.7	0.9	7.9	
	法人企業統計設備投資 (製造業)	-0.8	-7.5	-14.6	2.4	-1.2						
	(非製造業)	17.9	29.5	-15.8	-4.3	0.0						
公共投資	企業立地件数	-	-	-	-	-	18	14				
	公共工事請負額	-10.2	20.7	3.5	-8.4	20.9	-21.7	17.5	29.8	17.0	-0.3	-44.7
輸出入	実質輸出 (季節調整済、2015年=100)	101.0	101.1	101.9	105.0	108.5	104.5	103.5	108.5	113.4	107.4	
	通関輸出 (金額ベース、円建て)	-6.7	3.5	7.2	12.2	11.2	10.9	11.6	13.2	9.0	13.7	4.8
	実質輸入 (季節調整済、2015年=100)	95.9	96.6	95.1	96.4	100.1	95.3	93.1	102.8	104.3	99.4	
	通関輸入 (金額ベース、円建て)	-12.5	6.2	9.1	13.4	14.6	12.0	13.1	17.5	13.1	7.8	18.5
物価	消費者物価指数 (除く生鮮)	-0.4	0.2	0.4	0.6	0.9	0.7	0.8	1.0	0.9	0.9	1.1
	(食料及びエネルギーを除く総合)	0.0	-0.1	-0.1	0.0	0.0	0.0	-0.1	0.1	0.1	0.2	0.5
金融	国内銀行預金残高	3.8	3.5	3.4	3.6	3.2	4.3	3.5	3.1	3.0	3.1	
	国内銀行貸出残高	2.4	3.2	3.6	3.4	2.2	3.2	2.7	2.0	1.9	1.7	
倒産	倒産件数	26.6	0.0	3.6	4.0	8.7	14.0	-4.5	23.3	8.8	47.8	-5.1

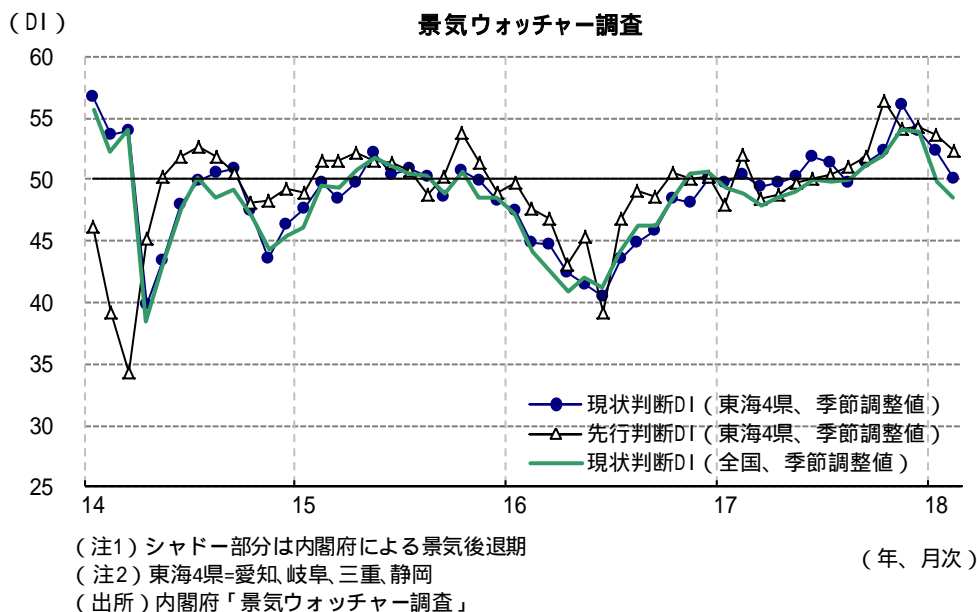
(注) 括弧書きのない場合は、単位は前年比、%

1. 景気全般 ~回復基調

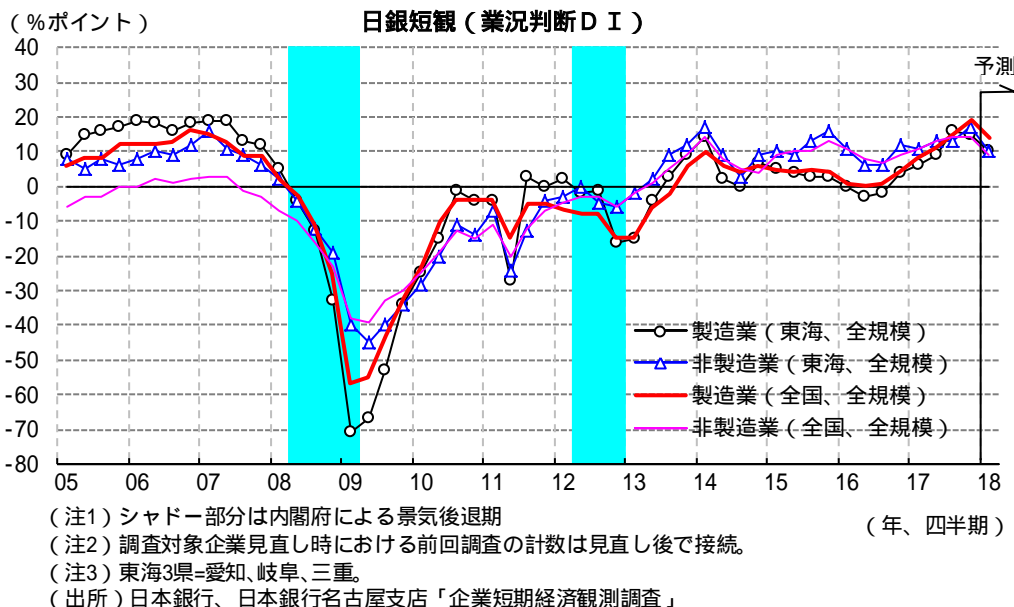
12月のMURC東海景気動向指数(CI一致指数)は、採用系列の7系列のうち生産指数、有効求人倍率、人件費比率など4つがプラス寄与となって前月差+4.1の154.7と3ヶ月連続で上昇した。12月の各県のCI一致指数の動向を見ると、三重県は3ヶ月ぶりに低下したが、愛知県、岐阜県は3ヶ月連続で上昇した。



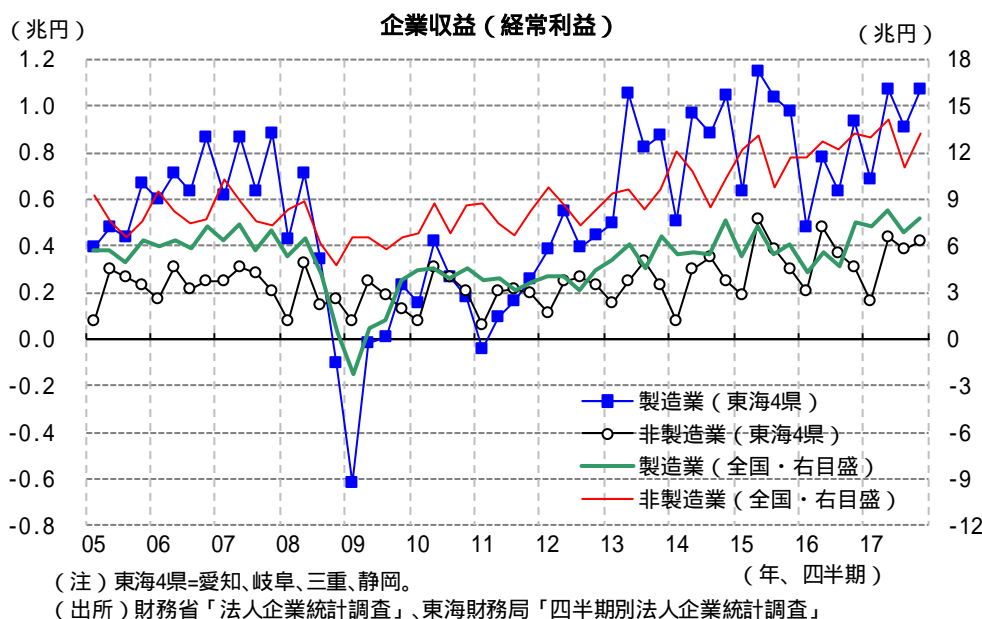
2月の東海4県の景気ウォッチャー調査は、足元の景況感を示す現状判断DI(季節調整値)が、天候要因もあって、前月差-2.4ポイントの50.0と3ヶ月連続で低下した。東海の景気マインドは回復が一服している。また、先行き判断DI(季節調整値)は同-1.3ポイントの52.4と2ヶ月連続で低下した。物価や燃料コストの上昇、人手不足などへの懸念はあるが、新年度入りなど季節要因による改善を期待する声が多い。



日銀短観12月調査によると、東海3県の業況判断D I(「良い」-「悪い」)は、全産業[全規模]で+16と前回9月調査から2ポイント上昇、製造業[全規模]では+15と、前回調査から1ポイント低下、非製造業[全規模]では+17と前回調査から4ポイント上昇した。規模別では、製造業の大企業と中小企業を除いて前回調査から改善した。先行きについては、中堅企業を除く製造業、非製造業(全規模)で悪化が見込まれている。

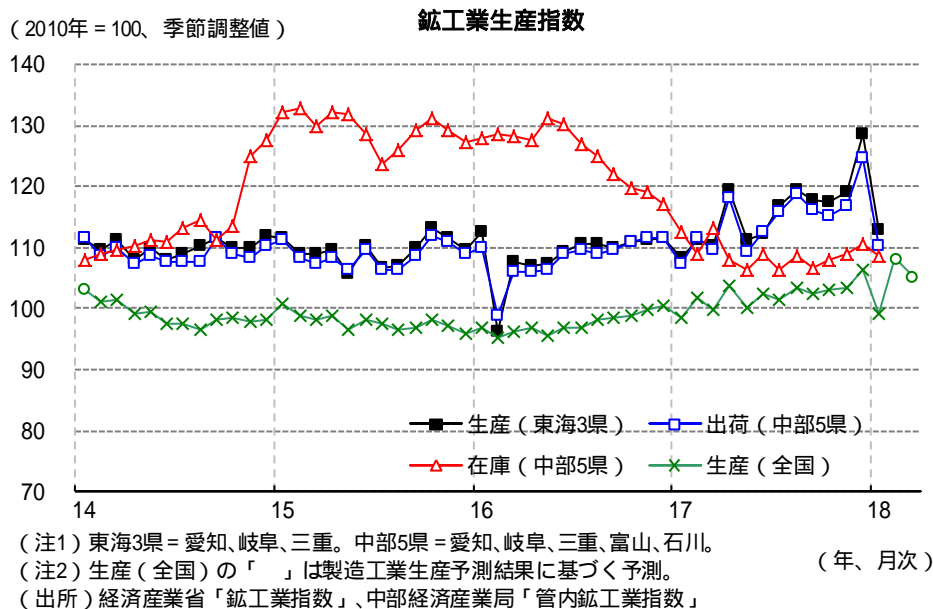


2017年10~12月期の東海4県の大企業の経常利益は前年同期比で+20.4%と4四半期連続で増加した。製造業が同+14.9%と4四半期連続で増加し、非製造業は同+37.2%と2四半期連続で増加した。日銀短観12月調査では、東海企業の17年度の経常利益は全産業で同+10.0%、製造業で同+15.4%と前回9月調査から上方修正され、増益を見込んでいる。一方、非製造業では同-3.4%と減益を見込んでいる。

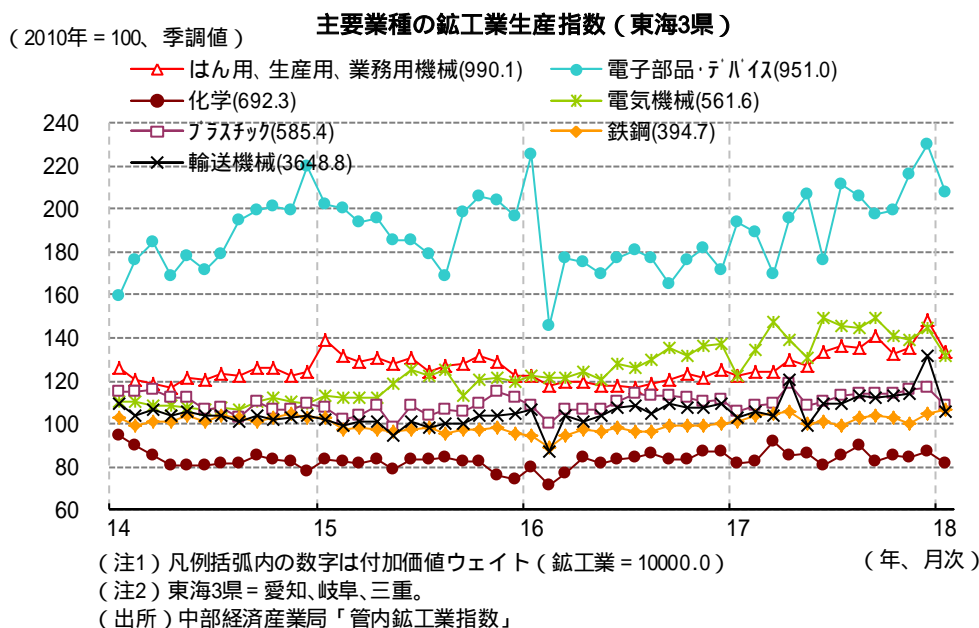


2. 生産 ~ 増加基調

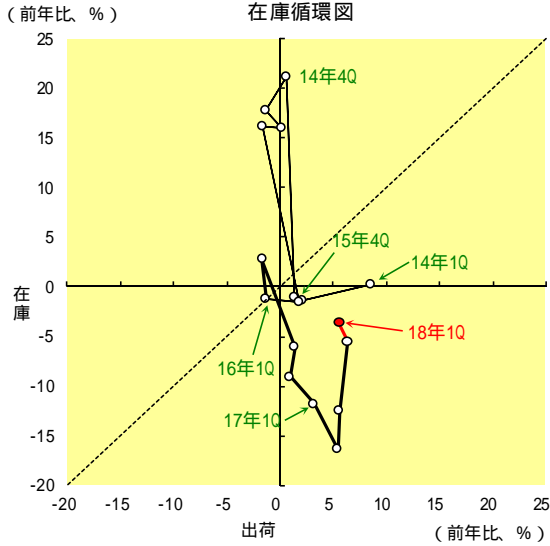
1月の東海3県の鉱工業生産は、前月比 - 12.4%の112.8と3ヶ月ぶりに減少した。輸送機械、電子部品・デバイス、はん用・生産用・業務用機械などが減少した。東海の実績は均して見ると増加基調で推移している。先行きについては、主要業種である輸送機械の底堅い推移が見込まれる中、全体としては緩やかな増加が見込まれる。



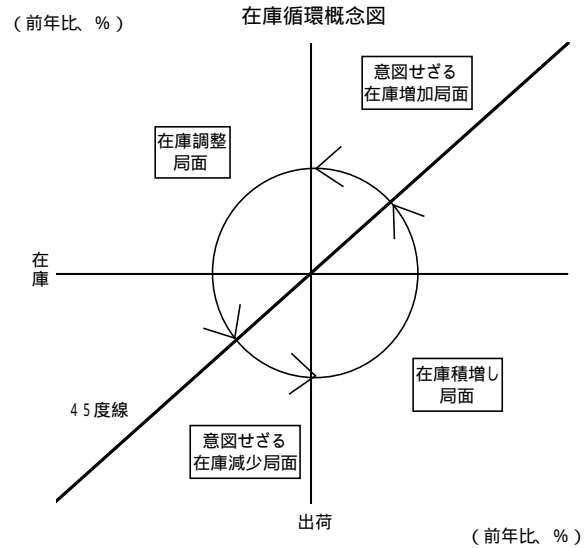
業種別では、鉄鋼業(前月比+1.8%)は2ヶ月連続で増加したが、輸送機械(同-19.2%)、電子部品・デバイス(同-9.6%)、プラスチック製品(同-6.8%)はそれぞれ4ヶ月ぶりに減少し、はん用・生産用・業務用機械(同-9.5%)は3ヶ月ぶりに減少した。また、電気機械(同-8.7%)、化学(同-6.8%)は2ヶ月ぶりに減少した。



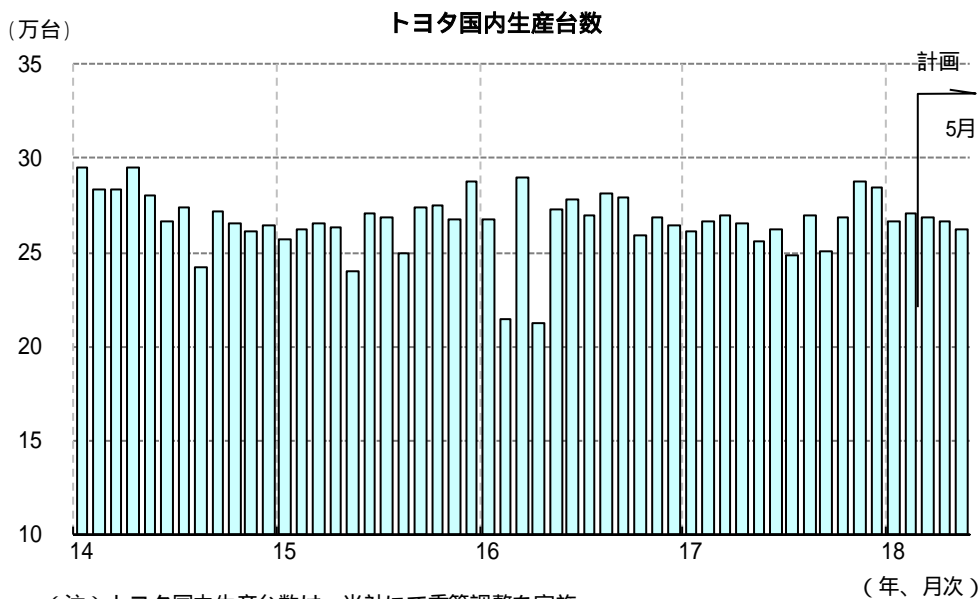
1月の中部5県の出荷は、前月比 - 11.4%と3ヶ月ぶりに減少した。食料品(同+1.9%)などが増加したが、輸送機械(同-18.7%)、電気機械(同-8.1%)、電子部品・デバイス(同-3.6%)などが減少した。在庫は、同-1.7%と4ヶ月ぶりに減少した。電子部品・デバイス(同+10.0%)などが増加したが、輸送機械(同-22.1%)、金属製品(同-7.0%)などが減少した。



(注1) 数値は四半期・原数値の前年比、在庫は期末値
 (注2) 中部5県 = 愛知、岐阜、三重、富山、石川。
 (注3) 直近18年1Qの出荷、在庫は1月の前年比
 (出所) 経済産業省「鉱工業指数」中部経済産業局「管内鉱工業指数」

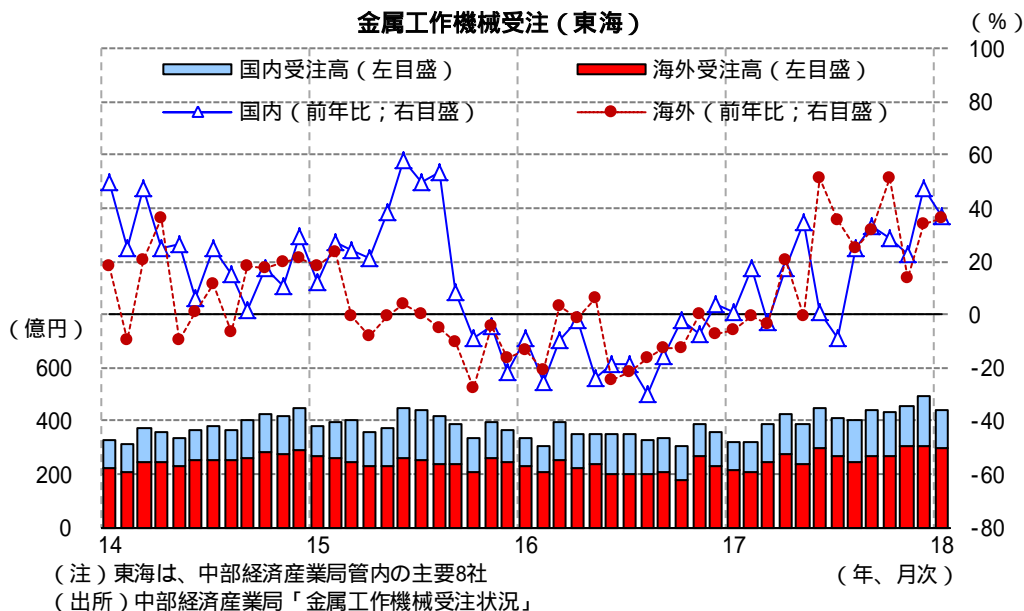


中部経済新聞社報道のトヨタ自動車国内生産計画によると、向こう3ヶ月(18年3~5月)の国内日当たり生産台数は1万2,000~1万3,000台で推移する見込みである。季節調整済みの数字で見ると、17年後半は水準が上昇したが、先行きはやや水準を下げながらも底堅い推移が見込まれている。SUV、ミニバン系車種の好調が、国内生産の底堅さにつながっている。



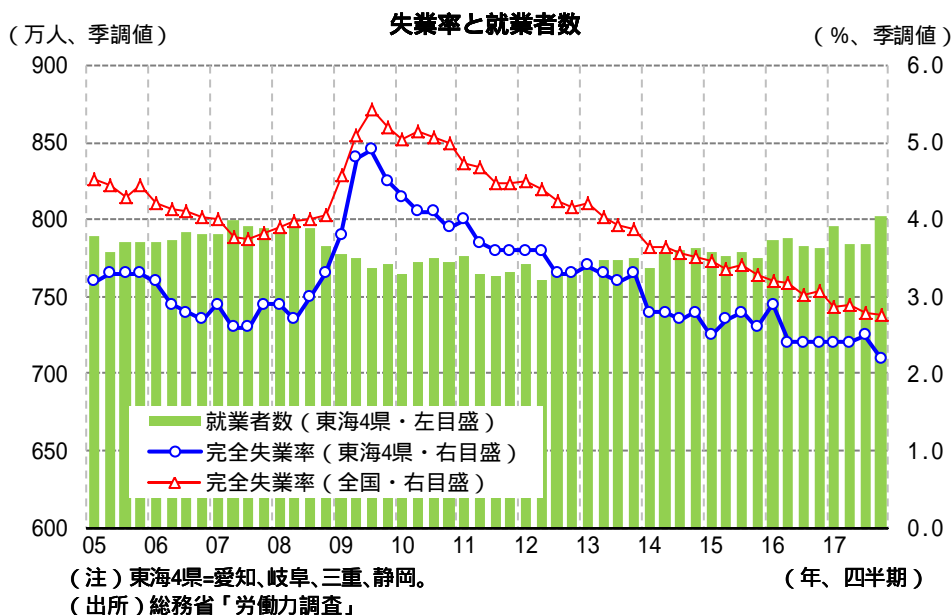
(注) トヨタ国内生産台数は、当社にて季節調整を実施。
 (出所) トヨタ自動車「生産・国内販売・輸出実績」、中部経済新聞「トヨタ生産計画」

18年1月の中部の主要工作機械メーカー8社の総受注額は、前年比+36.6%と10ヶ月連続で増加した。国内受注(同+36.7%)は6ヶ月連続で増加し、海外受注(同+36.5%)は8ヶ月連続で増加した。地域別では、米国向けは12ヶ月連続で増加し、中国向けは13ヶ月連続、欧州向け、アジア(含む中国)向けはそれぞれ10ヶ月連続で増加した。

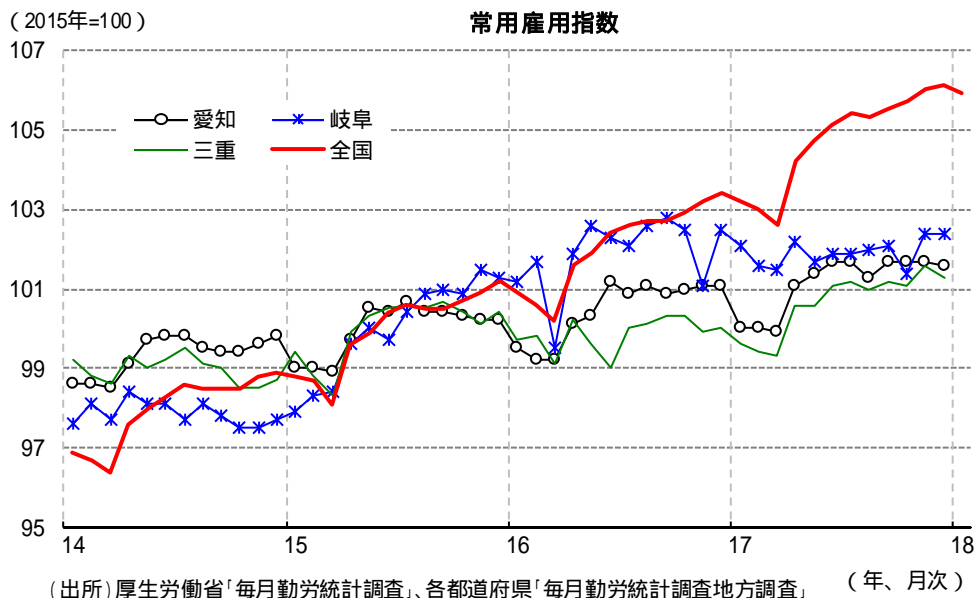


3. 雇用 ~ 緩やかに持ち直している

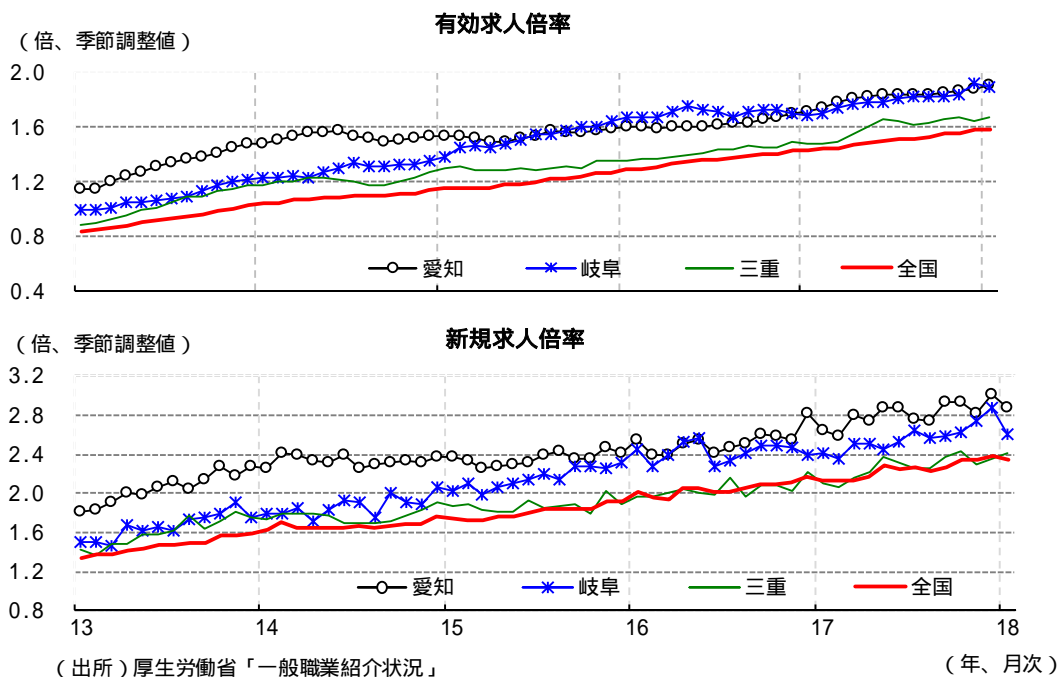
2017年10~12月期の東海4県の完全失業率は前期差-0.3%の2.2%と低下し、全国(2.8%)に比べて低い水準で推移している。同時期の就業者数は前期差18万人の増加、完全失業者は前期差2万人の減少となった。人手不足の状況が続いており、有効求人倍率は高水準で推移している。一方、東海3県の常用雇用指数は、全国に比べて弱い動きとなっている。



12月の東海3県の常用雇用指数は、愛知県が前年比+0.5%と19ヶ月連続で上昇し、三重県(同+1.3%)は10ヶ月連続で上昇した。一方、岐阜県(同-0.1%)は2ヶ月ぶりに減少した。東海3県の常用雇用指数は総じて横ばい圏で推移しており、前年比で見て3県いずれも全国(同+2.6%)に比べて弱い動きとなっている。

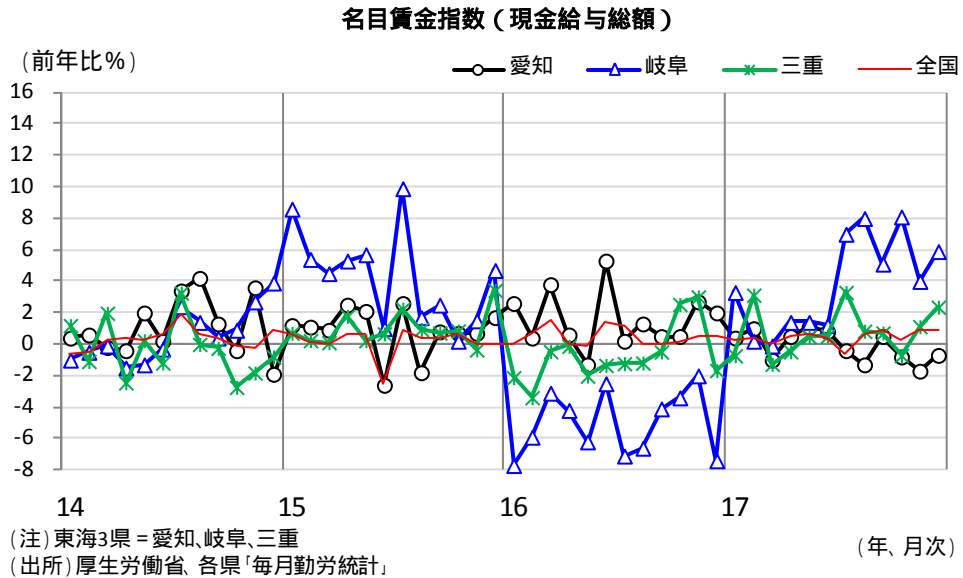


1月の東海3県の有効求人倍率(季節調整値)は、岐阜県(1.90倍)は3ヶ月ぶりに低下したが、愛知県(1.91倍)は4ヶ月連続、三重県(1.68倍)は2ヶ月ぶりに上昇した。また、有効求人倍率に先行する新規求人倍率(同)は、愛知県(2.87倍)は2ヶ月ぶりに、岐阜県(2.60倍)は5ヶ月ぶりに低下したが、三重県(2.42倍)は2ヶ月連続で上昇した。

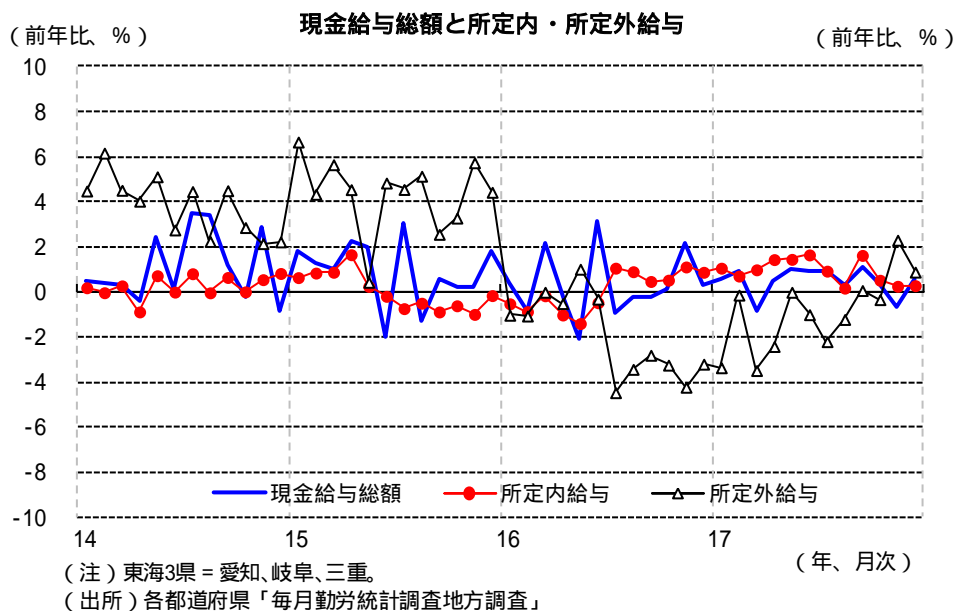


4. 賃金 ~ 緩やかに持ち直している

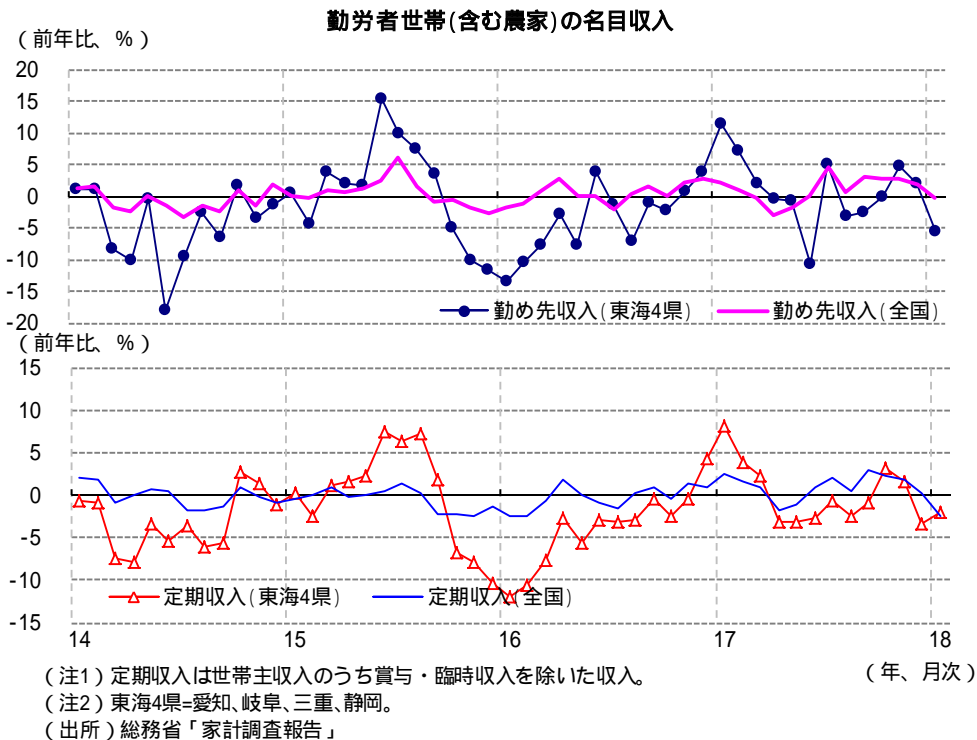
東海3県の12月の名目賃金指数（現金給与総額）をみると、岐阜県は前年比+5.9%と9ヶ月連続で増加し、三重県は同+2.4%と2ヶ月連続で増加した。一方、愛知県は同-0.7%と3ヶ月連続で低下した。東海3県の賃金は所定内給与の増加が続くなど基調としては緩やかに持ち直している。今後についても、持ち直しが続くと思われる。



東海3県の12月の一人当たり現金給与総額（加重平均）は、前年比+0.6%と2ヶ月ぶりに増加した。内訳をみると、所定内給与は同+0.3%と18ヶ月連続で増加、所定外給与は同+0.9%と2ヶ月連続で増加、特別給与は同+0.8%と4ヶ月ぶりに増加した。

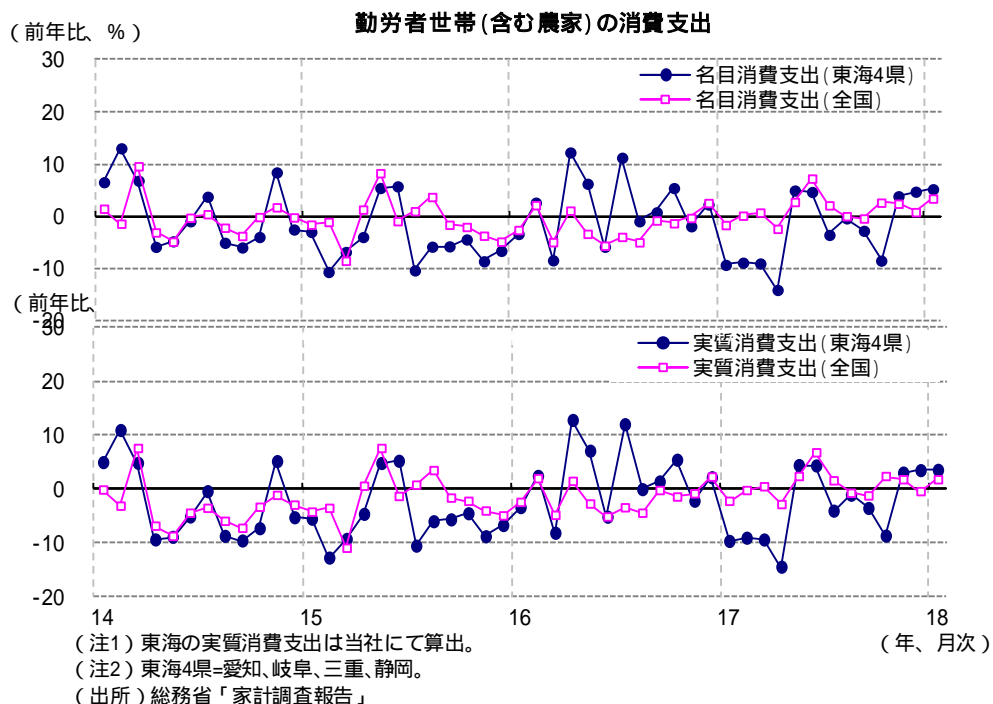


家計調査によると、1月の東海4県の勤労者世帯(含む農家)の賞与を含む勤め先収入は前年比-5.5%と3ヶ月ぶりに減少した。また、定期収入(世帯主収入のうち賞与・臨時収入を除いた収入)は同-2.1%と2ヶ月連続で減少した。

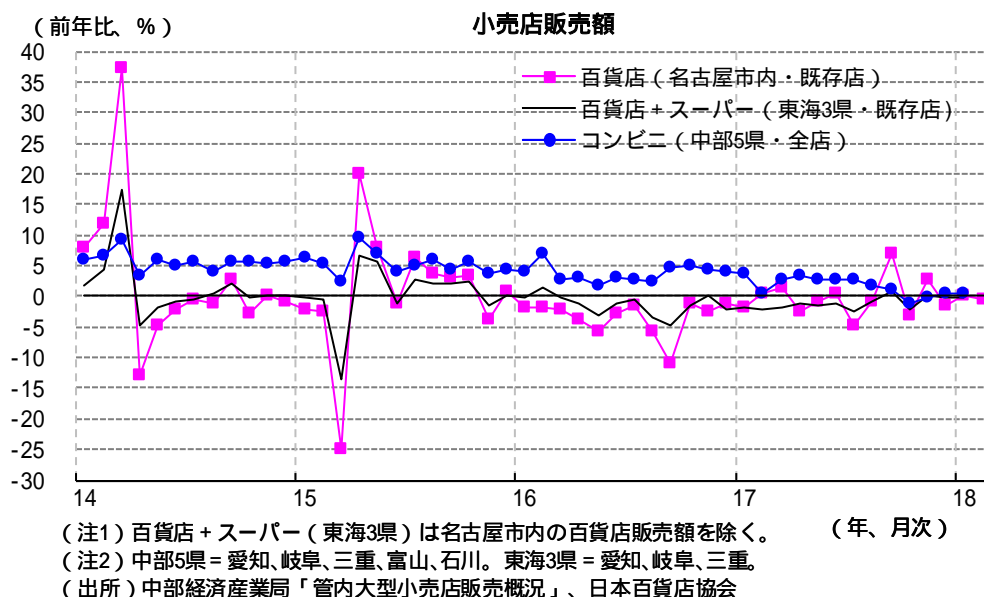


5. 個人消費 ~ 横ばい圏で推移している

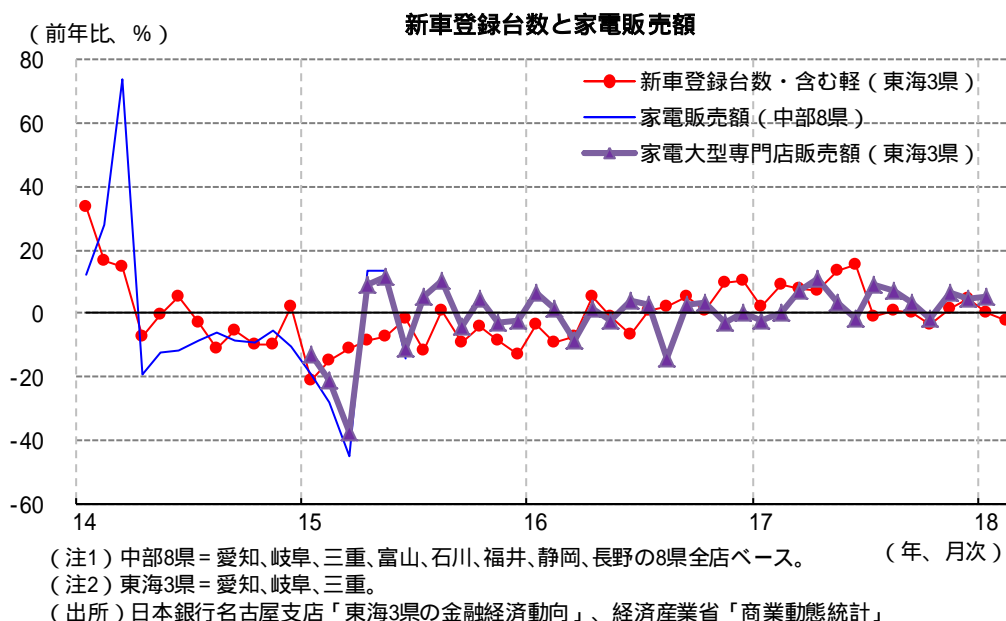
1月の東海4県の勤労者世帯(含む農家)の消費支出は、名目で前年比+5.2%、実質で同+3.4%と、いずれも3ヶ月連続で増加した。他の消費関連の指標も合わせてみると、東海の個人消費は横ばい圏で推移している。今後の個人消費は、所得環境が緩やかに持ち直す中で、持ち直しの動きが出てくると見込まれる。



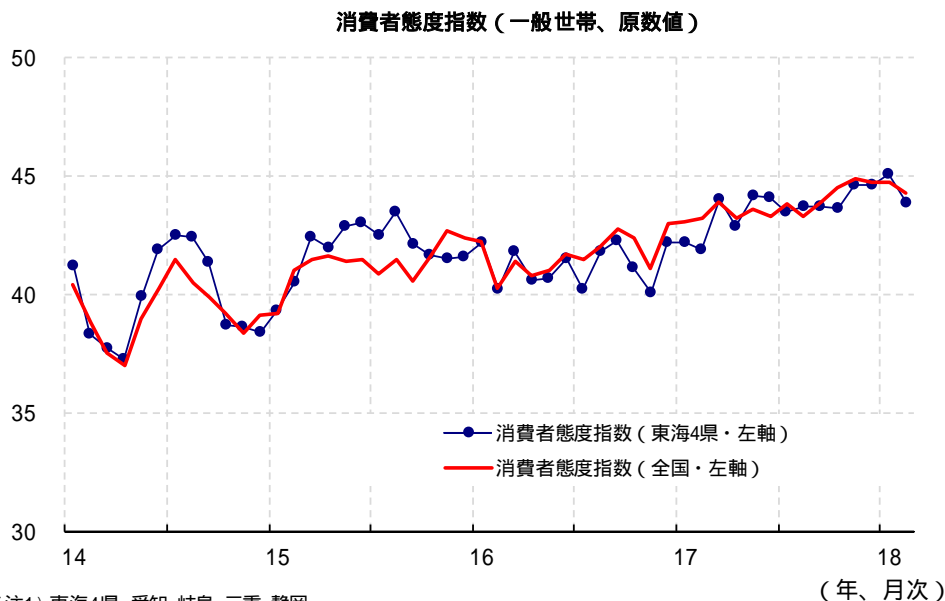
1月の東海3県の大型小売店(百貨店+スーパー、既存店)の販売額は、前年比 - 0.2%と小幅ながら2ヶ月連続で減少した。また、2月の名古屋市内の百貨店販売額は、同 - 0.6%と2ヶ月ぶりに減少した。春節期間のインバウンド消費やバレンタイン商戦が好調であったものの、寒い日が続いた影響で春物衣料などが振るわなかった。



2月の東海3県の新車登録台数(乗用車、含む軽)は、前年比 - 2.1%と2ヶ月連続で減少した。内訳を見ると、軽自動車販売は同 + 5.8%と2ヶ月連続で増加したが、普通乗用車は前年比 - 0.8%と2ヶ月連続で減少し、小型乗用車は同 - 11.4%と8ヶ月連続で減少した。一方、1月の東海3県の家電大型専門店販売額は、同 + 5.3%と3ヶ月連続で増加した。

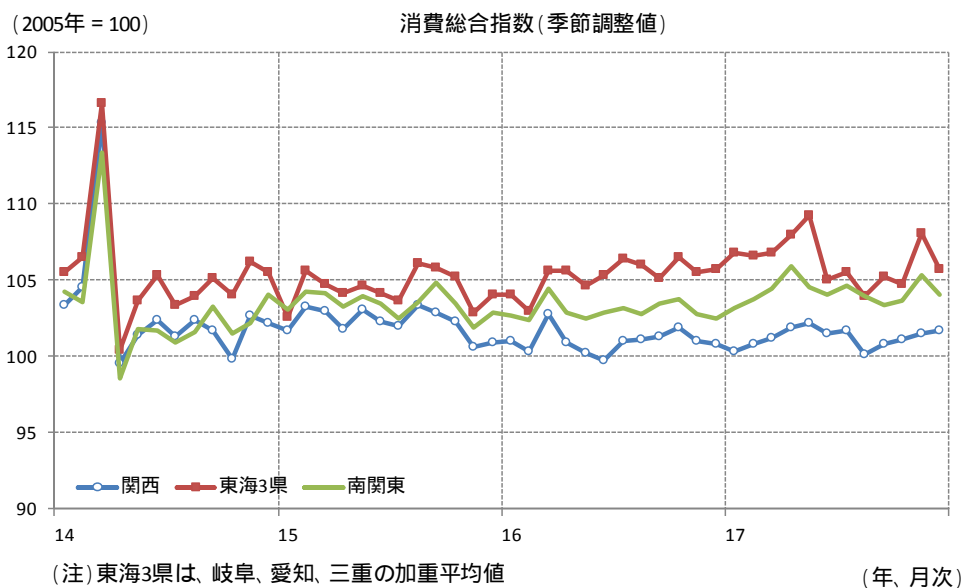


消費者マインドを表す消費者態度指数(東海、一般世帯、原数値)は、2月は前月差-1.2ポイントの43.9となったが、均して見ると持ち直しの動きが見られる。今後については、景気が緩やかに持ち直す中、消費者マインドも緩やかに持ち直してくると見込まれる。



(注1) 東海4県=愛知、岐阜、三重、静岡。
 (注2) 消費者態度指数は一般世帯、東海4県は原数値、全国は季節調整値。
 (出所) 内閣府「消費動向調査」

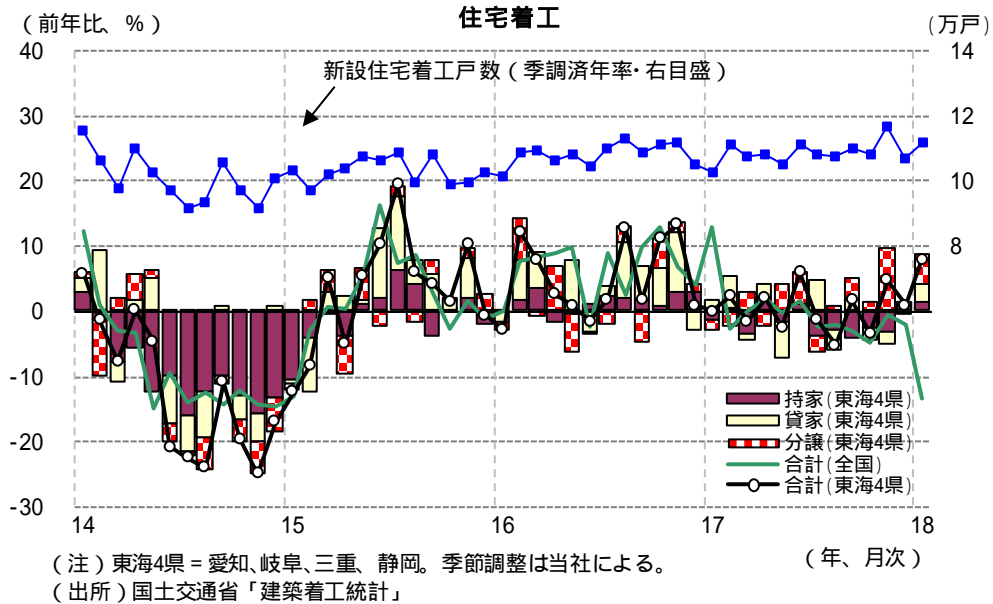
内閣府が2月に公表した地域別消費総合指数(直近は17年12月)によると、東海3県のサービス消費を含む個人消費は、16年3月以降は水準を幾分上げて、持ち直しの動きが見られたが、17年6月は、交通・通信を中心に上昇した5月の反動もあって急低下し、その後はほぼ横ばいとなっている。



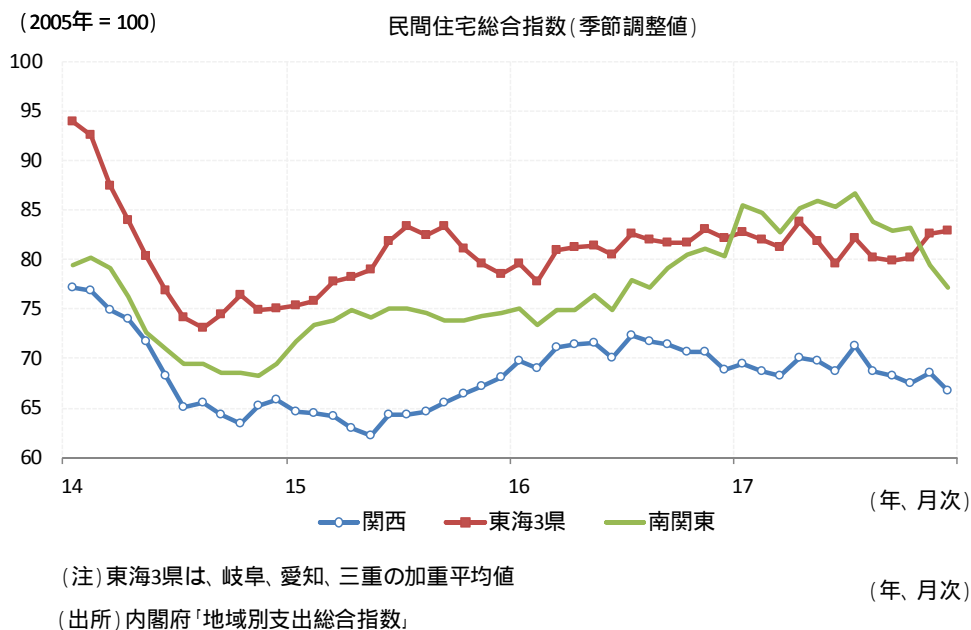
(注) 東海3県は、岐阜、愛知、三重の加重平均値
 (出所) 内閣府「地域別支出総合指数」、「消費総合指数」

6. 住宅投資 ~ 横ばい圏で推移している

18年1月の東海4県の住宅着工戸数(季調済)は、前月比で+4.5%と2ヶ月ぶりに増加したが、均してみると横ばい圏で推移している。前年比でみると、+7.9%(10,427戸)と3ヶ月連続で増加した。利用関係別の寄与度は、持家は2ヶ月連続で、分譲は6ヶ月連続でプラスとなり、貸家は4ヶ月ぶりにプラスとなった。先行きについては、弱含みでの推移が見込まれる。

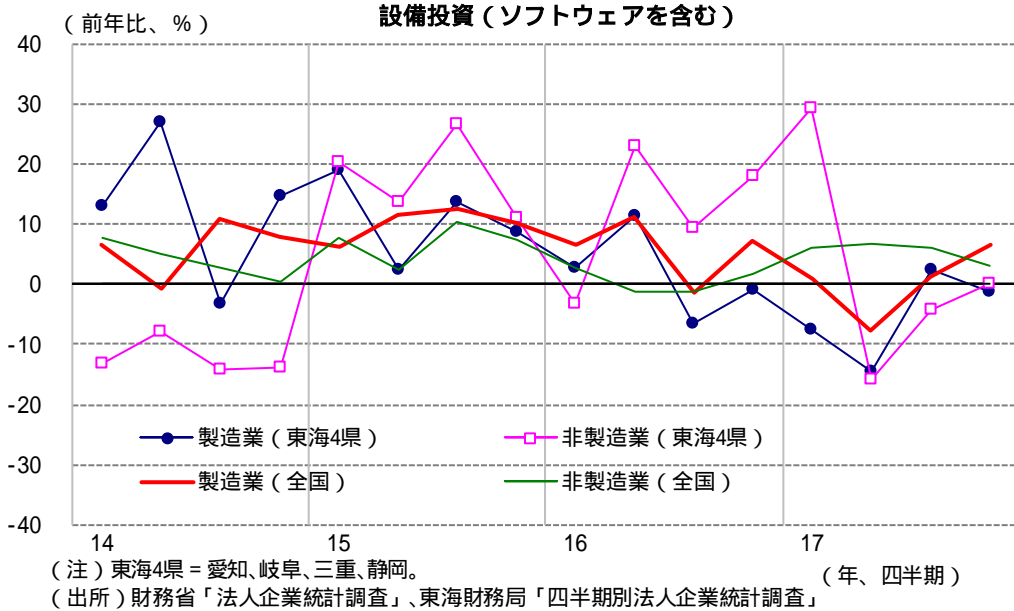


内閣府が2月に公表した地域別民間住宅総合指数(直近は17年12月)によると、東海3県(岐阜、愛知、三重)の工事進捗ベースでの住宅投資の動向は、16年に入って持ち直しの動きが続いていたが、17年中頃から持ち直しが一服した後、足下で持ち直しの動きがみられる。

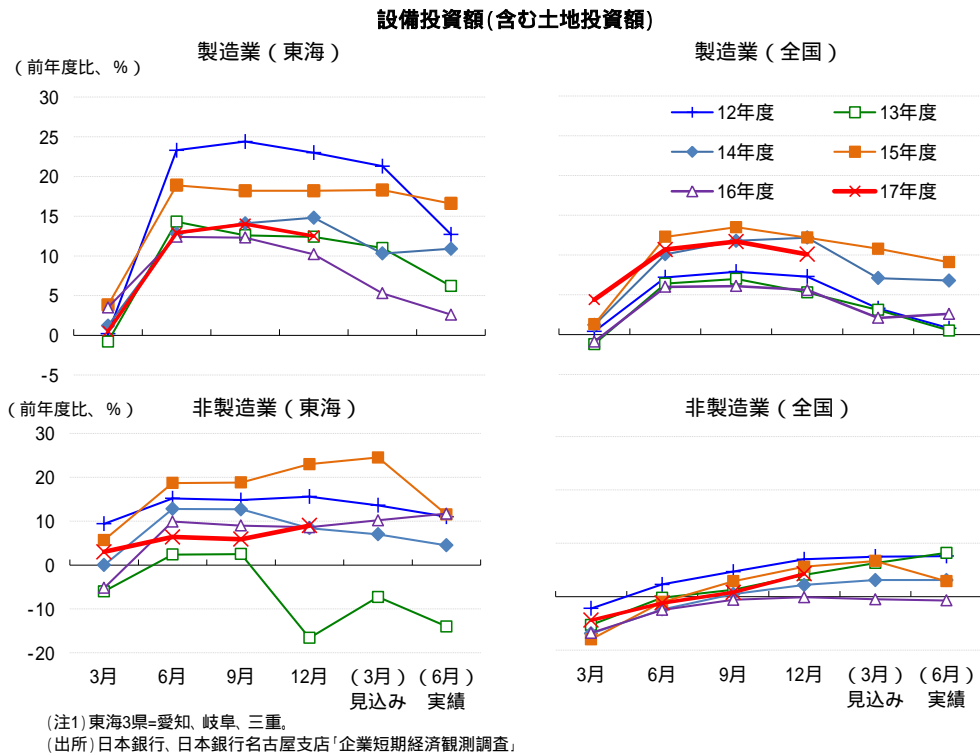


7. 設備投資 ~弱含み

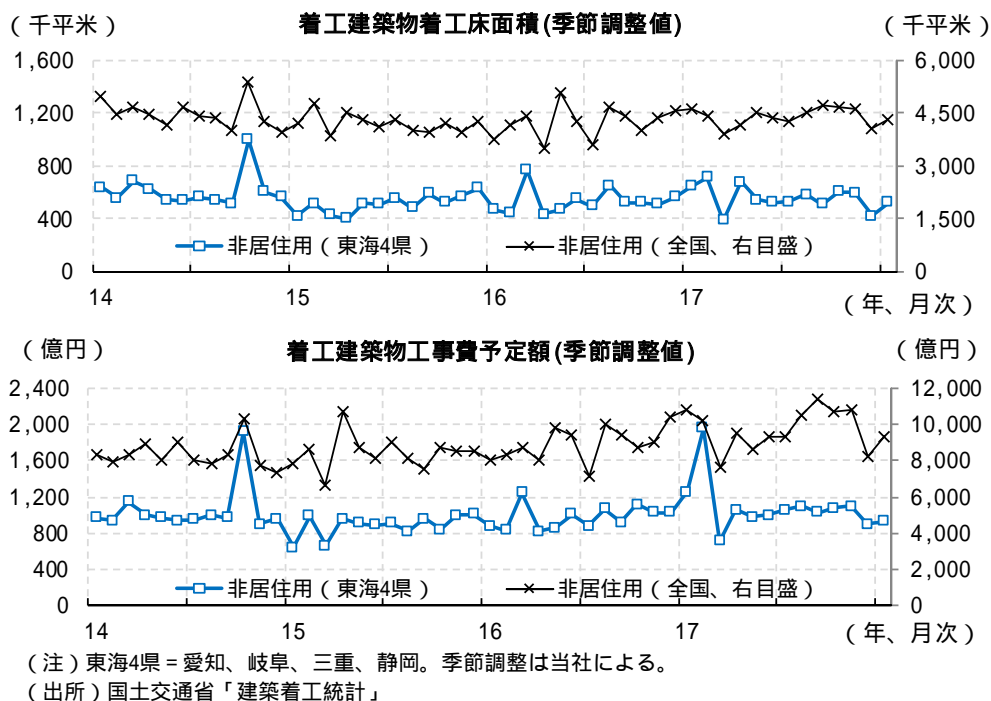
2017年10~12月期の東海4県の大企業の設備投資(ソフトウェアを含む)は、前年比 - 0.6%と三四半期連続で減少した。製造業は同 - 1.2%と二四半期ぶりに減少し、非製造業は同 - 0.0%と前年とほぼ同水準となった。



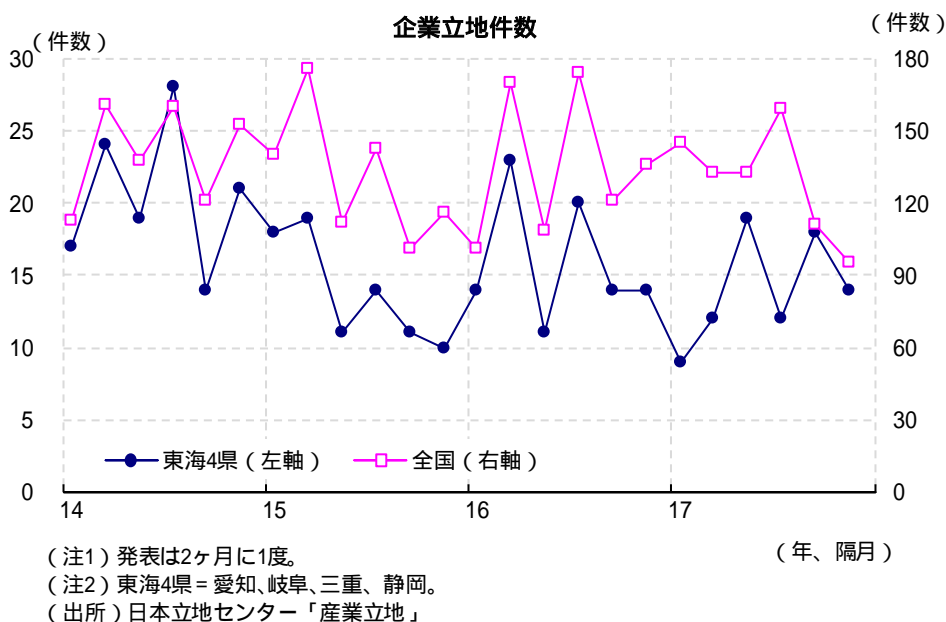
日銀短観12月調査によると、東海3県の17年度の設備投資は、全産業で前年比 + 10.8%、製造業で同 + 12.5%、非製造業で同 + 9.0%となり、引き続き全国を上回るペースでの増加を見込んでいる。前回9月調査時の17年度計画に比べると、製造業は下方修正となったが、非製造業では上方修正となった。



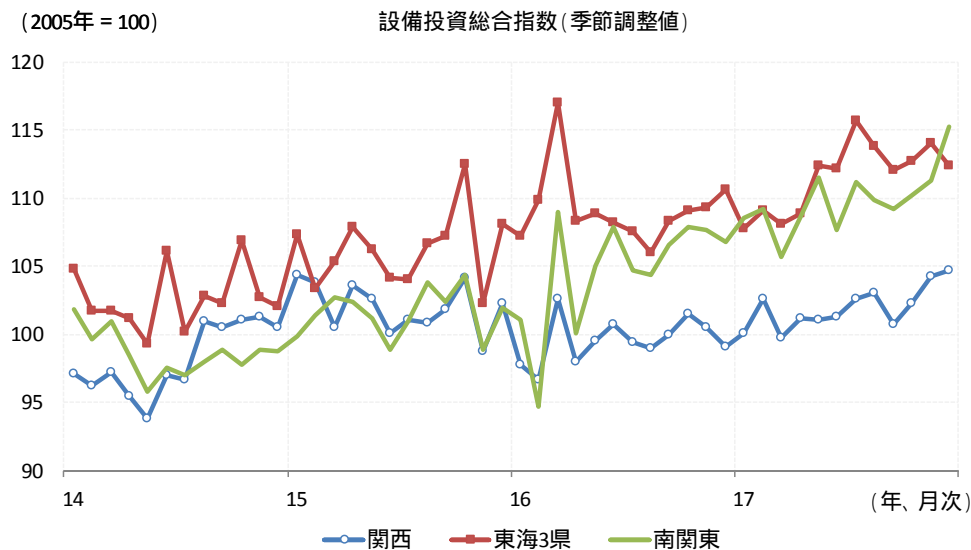
18年1月の東海4県の非居住用の着工床面積(季節調済)は、前月比+23.8%と3ヶ月ぶりに増加した。また、着工建築物の工事費予定額(季節調済)は、同+3.4%と2ヶ月ぶりに増加した。東海4県の非居住用建築着工は、均してみると横ばい圏で推移している。



2017年10・11月の東海4県の企業立地件数は14件と、前期(2017年8・9月; 18件)を上回り、前年同期(14件)と同水準となった。東海地区の企業立地は振幅しながらも概ね横ばい圏で推移している。



内閣府が2月に公表した地域別民間企業設備投資総合指数(直近は17年12月)によると、東海3県(岐阜、愛知、三重)の民間企業設備投資は、2016年半ば以降、総じて増加基調で推移してきたが、足下で増加が一服している。

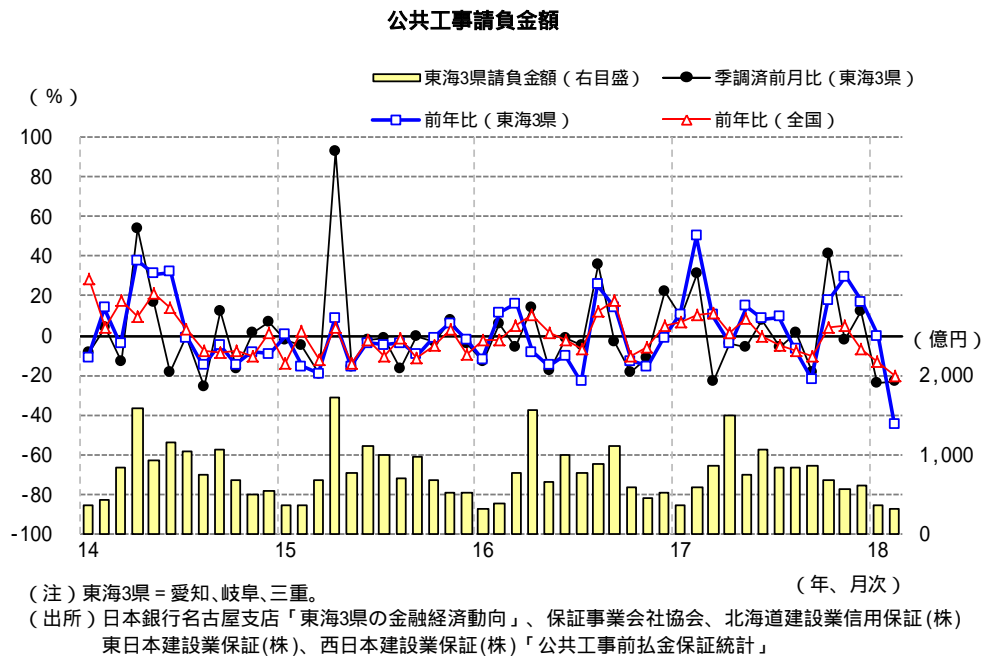


(注) 東海3県は、岐阜、愛知、三重の加重平均値
(出所) 内閣府「地域別支出総合指数」

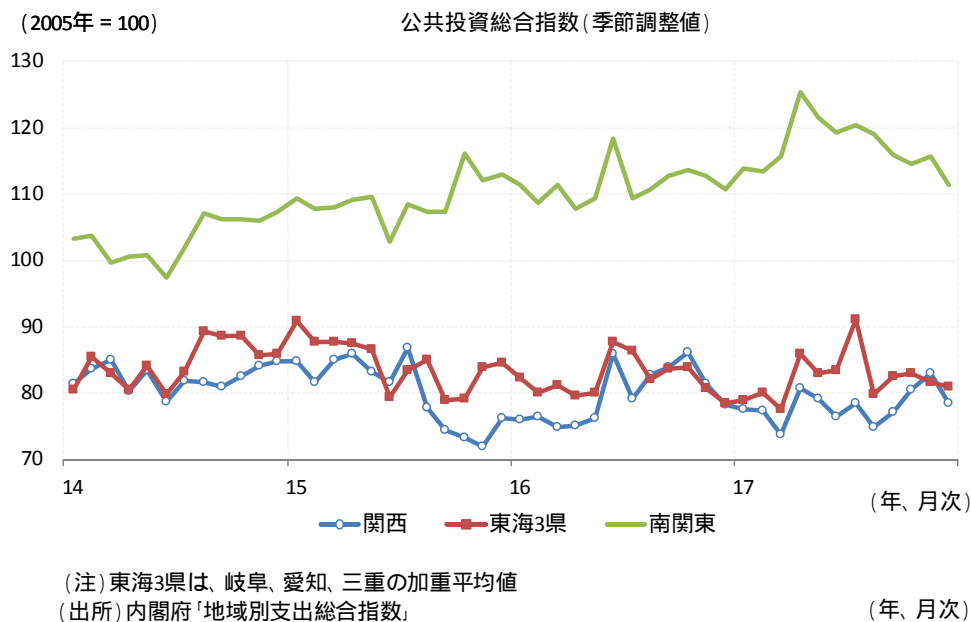
(年、月次)

8. 公共投資 ~減少している

2月の東海3県の公共工事請負額は、前年比 - 44.7%の328億円と2ヶ月連続で前年を下回った。発注者別では、国は同 - 64.8%と5ヶ月ぶりに減少し、地方は同 - 28.4%と2ヶ月連続で減少した。年度累計では同 - 0.8%と4ヶ月ぶりに減少した。一方、日銀名古屋支店公表の季調済み前月比は2月は - 23.2%と2ヶ月連続で減少した。先行きについては、横ばい圏での推移が見込まれる。

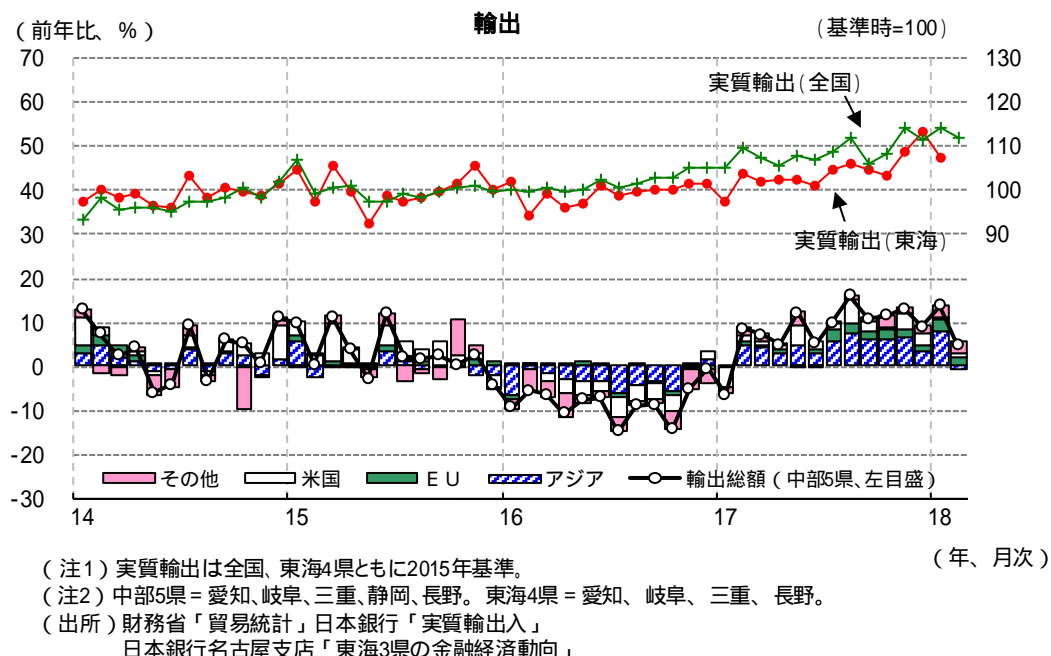


内閣府が2月に公表した地域別公共投資総合指数(直近は17年12月)によると、東海3県(岐阜、愛知、三重)の工事進捗ベースでの公共投資は、2015年以降、均して見ると減少傾向で推移してきた。2017年度に入ってから、前半に強含んだ後、後半は弱含んでいる。

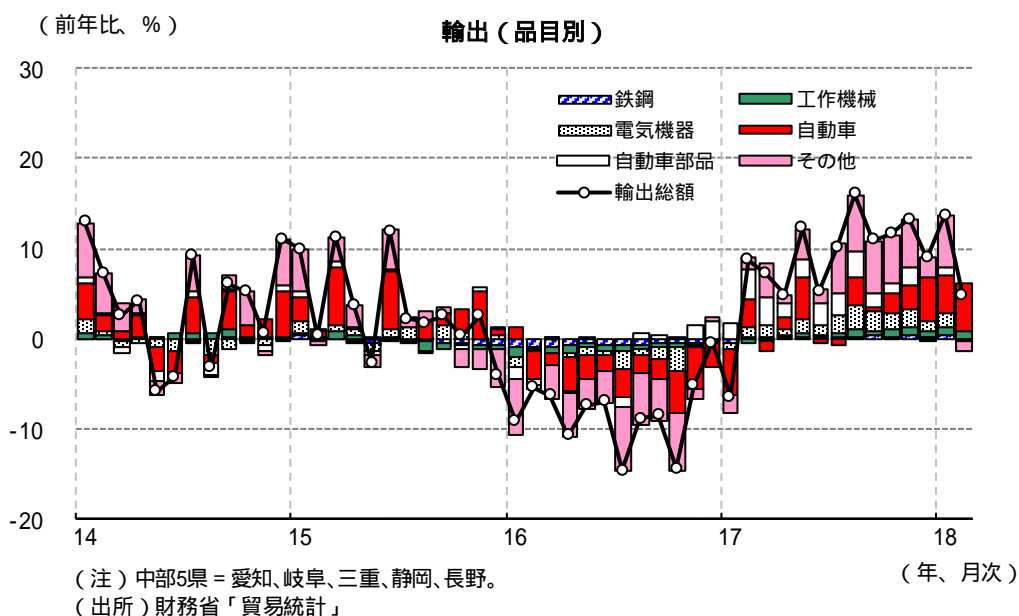


9. 輸出入 ~ 輸出、輸入ともに持ち直し

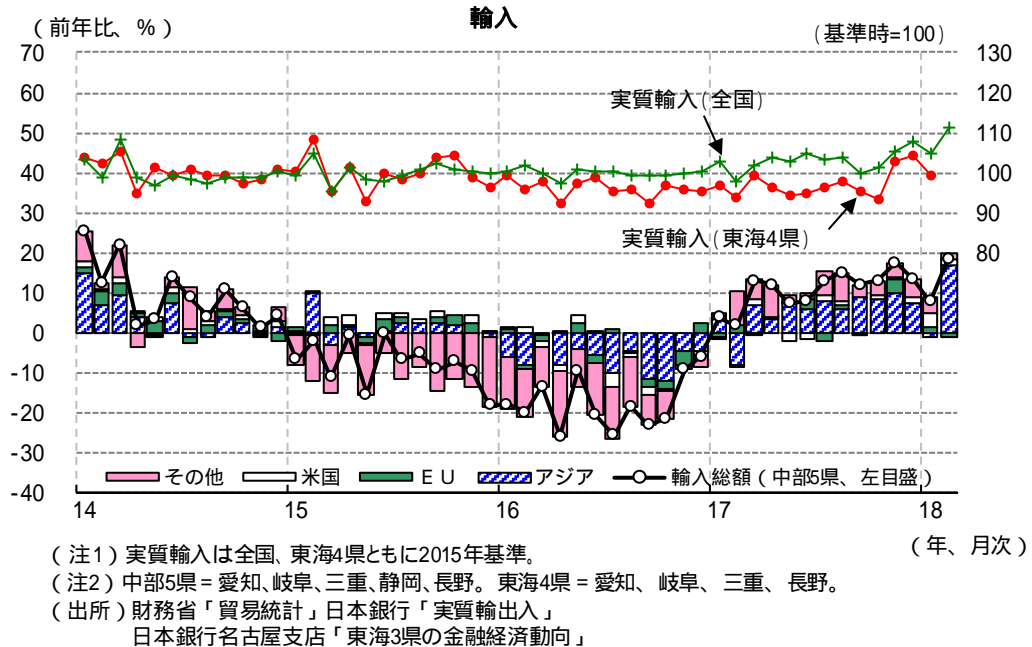
1月の実質輸出(季調済)は前月比-5.3%と3ヶ月ぶりに減少した。一方、2月の名古屋税関管内の輸出額は前年比+4.8%と13ヶ月連続で増加した。中国向けは同-10.2%、アジア向け(含む中国)は同-1.9%と減少したが、米国向けは同+2.3%、EU向けは同+15.2%と増加した。東海の輸出は均してみると持ち直している。先行きについては、世界経済が緩やかに回復する中、緩やかな持ち直しが見込まれる。



2月の名古屋税関管内の輸出額を品目別にみると、電気機器(前年比-1.1%)は13ヶ月ぶり、自動車部品(同-0.6%)は2ヶ月ぶりに減少したが、自動車(同+17.5%)は7ヶ月連続、工作機械(同+46.0%)は11ヶ月連続、鉄鋼(同+3.2%)は13ヶ月連続で増加した。

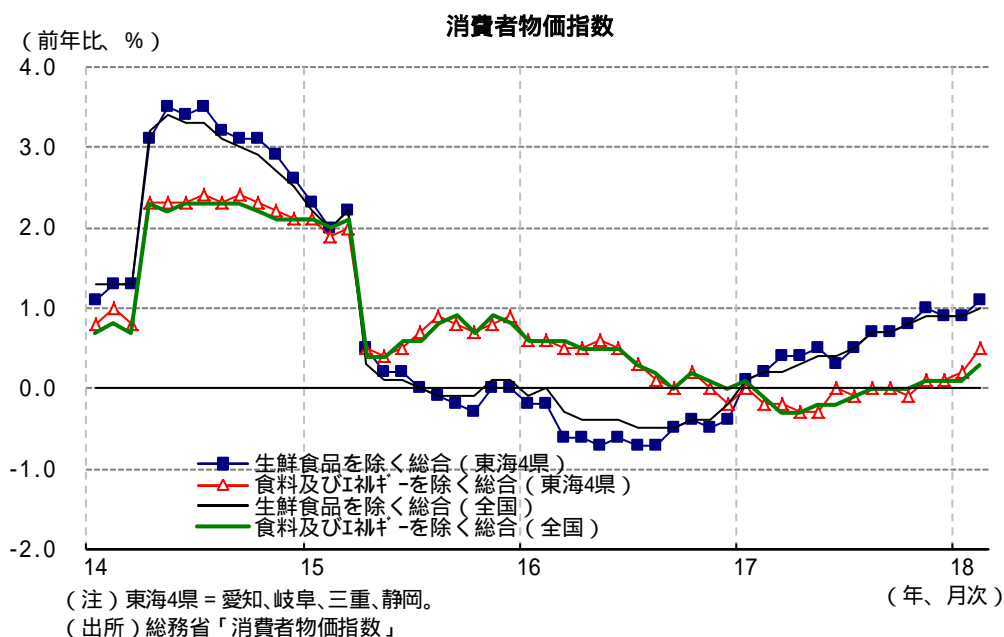


1月の実質輸入(季調済)は、前月比 - 4.7%と3ヶ月ぶりに減少した。一方、2月の名古屋税関管内の輸入額は前年比 + 18.5%と14ヶ月連続で増加した。品目別には、液化天然ガス、無機化合物、衣類及び同附属品などが増加した。地域別には、アジア(含む中国)、米国などが増加した。東海の実質輸入は均してみると持ち直している。今後は、国内の需要動向を反映して、実質輸入は持ち直しが見込まれる。



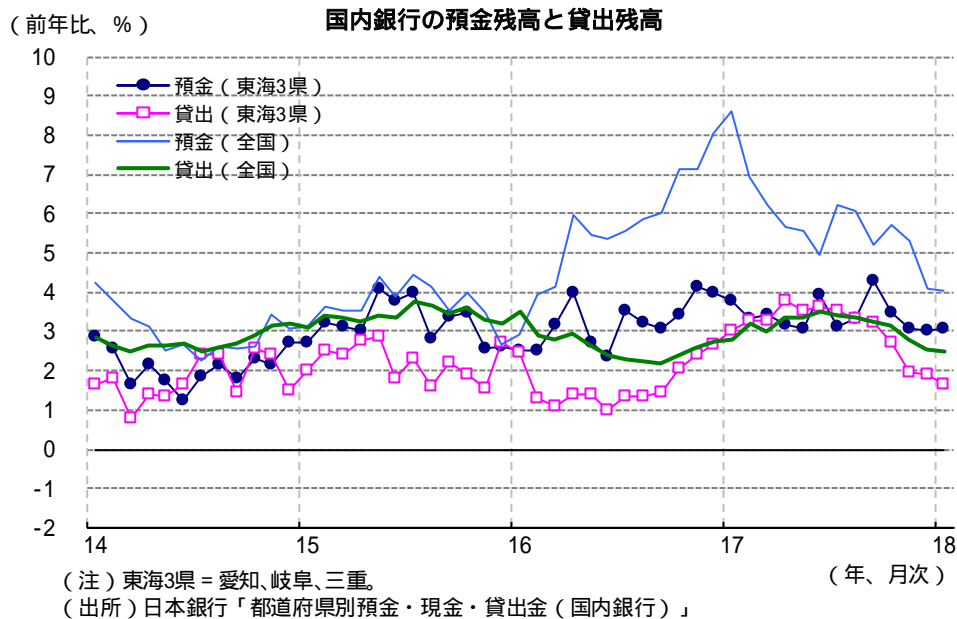
10. 物価 ~ 緩やかに上昇

2月の東海4県の消費者物価は、生鮮食品を除く総合で前年比 + 1.1%と14ヶ月連続で上昇した。食料品価格は4ヶ月連続で上昇し、エネルギー価格も上昇が続いている。食料・エネルギーを除く総合は同 + 0.5%と4ヶ月連続で上昇した。今後については、エネルギー価格の上昇一巡から、プラス幅は緩やかに縮小してくる見込みである。



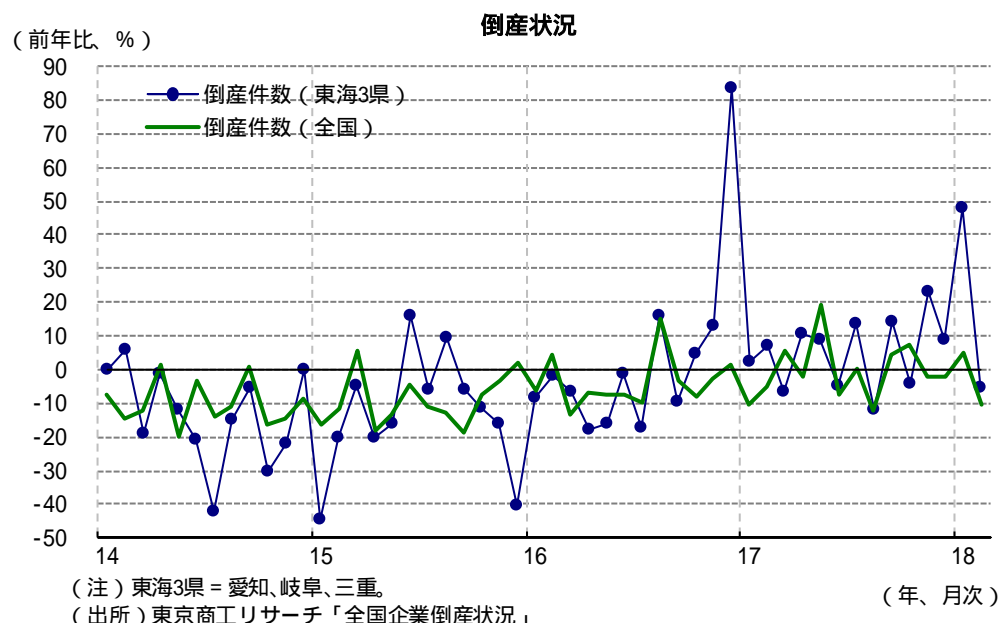
11. 金融 ~ 預金、貸出ともに増加

18年1月の東海3県の預金残高(国内銀行ベース)は、前年比+3.1%と増加が続いている。個人預金、法人預金ともに増加している。貸出残高(国内銀行ベース)は、資金需要が持ち直している中、同+1.7%と59ヶ月連続で増加した。貸出残高は今後も緩やかな増加が続くと見込まれる。



12. 倒産 ~ 倒産件数、負債総額ともに減少

2月の東海3県の倒産件数は前年比 - 5.1%の56件(前年同月59件)と4ヶ月ぶりに減少した。県別では、三重県は5件(同3件)と2ヶ月ぶりに増加したが、愛知県は38件(同43件)と2ヶ月ぶりに減少し、岐阜県は13件(同13件)と前年と同水準となった。また、2月の東海3県の負債総額は同 - 57.4%の44億円と2ヶ月ぶりに前年を下回った。



【全国及び関西地区との比較】

【今月の景気予報】

		3ヶ月前～	現況	～3ヶ月後			3ヶ月前～	現況	～3ヶ月後
景気全般	全国	↗		↗	全国	↗		↗	
	東海	↗		↗	輸出	東海	↗		↗
	関西	↗		↗	関西	↗		↗	
個人消費	全国	→		↗	全国	↗		↗	
	東海	→		→	輸入	東海	↗		→
	関西	↗		↗	関西	↗		→	
住宅投資	全国	↘		↘	全国	↗		↗	
	東海	→		→	生産	東海	↗		↗
	関西	↘		↘	関西	→		↗	
設備投資	全国	↗		↗	全国	↗		→	
	東海	→		↗	雇用	東海	↗		→
	関西	↗		↗	関西	↗		→	
公共投資	全国	→		→	全国	↗		→	
	東海	↘		→	賃金	東海	→		→
	関西	↘		↘	関西	↗		→	

: 晴れ
 : 薄日
 : 曇り
 : 小雨
 : 雨

- (注) 1. 3ヶ月前～、～3ヶ月後は「現況」の変化の方向感(改善、横ばい、悪化)を表し、「現況」は現在の水準を天気マークで表す
 2. シャドウ部分は、前月から矢印および天気マークを変更した項目を表す
 3. 全国は3月2日時点の予報。全国の天気マークは、晴れ、曇り、雨の3種類のみ。

【各項目のヘッドライン】

項目		2月のコメント	3月のコメント
1. 景気全般	全国	回復している	回復している
	東海	回復基調	回復基調
	関西	緩やかに持ち直している	緩やかに持ち直している
2. 生産	全国	増加している	増加している
	東海	増加基調	増加基調
	関西	持ち直しの動きが見られる	横ばい圏で推移している
3. 雇用	全国	緩やかに持ち直している	緩やかに持ち直している
	東海	緩やかに持ち直している	緩やかに持ち直している
	関西	緩やかに持ち直している	緩やかに持ち直している
4. 賃金	全国	緩やかに持ち直している	緩やかに持ち直している
	東海	緩やかに持ち直している	緩やかに持ち直している
	関西	緩やかに持ち直している	緩やかに持ち直している
5. 個人消費	全国	持ち直しが一服している	持ち直しが一服している
	東海	横ばい圏で推移している	横ばい圏で推移している
	関西	持ち直しの動きが見られる	持ち直しの動きが見られる
6. 住宅投資	全国	緩やかに減少している	緩やかに減少している
	東海	横ばい圏で推移している	横ばい圏で推移している
	関西	緩やかに減少している	緩やかに減少している
7. 設備投資	全国	増加している	増加している
	東海	増加が一服	弱含み
	関西	製造業を中心に持ち直している	持ち直している
8. 公共投資	全国	補正予算による押し上げ効果は一巡	横ばい圏で推移している
	東海	増加している	減少している
	関西	減少基調	減少基調
9. 輸出入	全国	輸出は増加している、 輸入は持ち直している	輸出は増加している、 輸入は持ち直している
	東海	輸出、輸入ともに持ち直し	輸出、輸入ともに持ち直し
	関西	輸出は増加基調、輸入は横ばい	輸出は増加基調、輸入は持ち直しの動き
10. 物価	全国	企業物価は上昇、 消費者物価は緩やかに上昇	企業物価は上昇、 消費者物価は緩やかに上昇
	東海	緩やかに上昇	緩やかに上昇
	関西	緩やかに上昇	緩やかに上昇
11. 金融	全国	銀行貸出、マネーストックともに 緩やかに増加	銀行貸出、マネーストックともに 緩やかに増加
	東海	預金、貸出ともに増加	預金、貸出ともに増加
	関西	預金、貸出ともに増加	預金、貸出ともに増加
12. 倒産	東海	倒産件数は増加、負債総額は減少	倒産件数、負債総額ともに減少
	関西	倒産件数、負債総額ともに増加	倒産件数は増加、負債総額は減少

(注) 1. シャドー部分は前月と比較して見方を変更した項目(11.金融、12.倒産を除く)

「グラフで見る東海経済」の見方

【今月の景気判断】

レポート発表時における景気判断。【今月の景気予報】における各項目の現況をもとに総合的に判断。

【今月の景気予報】

3ヶ月前～・・・3ヶ月前～現況の「方向感」を、改善、横ばい、悪化の3段階に分類。

現況・・・各項目の現在の「水準」を晴れ、薄日、曇り、小雨、雨の5段階に分類。

～3ヶ月後・・・現況～3ヶ月後の「方向感」を、改善、横ばい、悪化の3段階に分類。

(注)

現況を問わず天気マークはあくまで「水準」を判断したもので、3ヶ月前～の矢印が 改善、悪化の場合でも、必ずしも天気マークが変更されるわけではない。

【当面の注目材料】

各項目の現況、見通しをふまえて、今後景気を判断する上で注目すべきポイント。

【各項目のヘッドライン】

全12項目について、毎月簡単なヘッドラインを記載、当月と前月のものを対比して示している。

右端は各項目のグラフが掲載されているページ数。

【前月からの変更点】

景気予報において判断の変更があった場合に変更理由を記載。

【主要経済指標の推移】

当レポートで用いられている経済指標の半年間の動きを掲載。

【各項目】

発表されている経済指標を元に現況の判断、今後の見通しをグラフを用いて解説。

【全国及び関西地区との比較】

【今月の景気予報】と【各項目のヘッドライン】について、全国(グラフで見る景気予報)と関西地区(グラフで見る関西経済)の判断と、一覧表で比較。

- ご利用に際して -

- 本資料は、信頼できるとされる各種データに基づいて作成されていますが、当社はその正確性、完全性を保証するものではありません。
- また、本資料は、執筆者の見解に基づき作成されたものであり、当社の統一した見解を示すものではありません。
- 本資料に基づくお客様の決定、行為、及びその結果について、当社は一切の責任を負いません。ご利用にあたっては、お客様ご自身でご判断くださいますようお願い申し上げます。
- 本資料は、著作物であり、著作権法に基づき保護されています。著作権法の定めに従い、引用する際は、必ず出所:三菱UFJリサーチ&コンサルティングと明記してください。
- 本資料の全文または一部を転載・複製する際は著作権者の許諾が必要ですので、当社までご連絡ください。